

友と楽しんだ「ツルム・ド・北海道」備忘録

機械工学科 11 期生 江別市在住

皆さまこんにちは。

ここ数年はコロナ禍で樽前会懇親会などの機会がめっきりなくなった。同窓の皆さまとの交流なども少し忘れかけたので、久々に樽前会ニュースなど読んでいたが、とても懐かしい気持ちになったと同時に、昨年の夏、同期の友人達と遊び歩いたことを紹介したいと思い立った。年末年始で時間を持って余していたこともあり、樽前会「同窓会便り」に投稿するには粗末な内容で躊躇したが、お叱りを覚悟で投稿させていただいた。

さて、同期の面々とは、還暦を過ぎても地味に感動を求め続けている、工業化学科 11 期大竹君、電気工学科 11 期宮脇君、機械工学科 11 期小笠原君、澤田君、田端君、松岡君、山田君、坂東（筆者）9 人です。2022 年 7 月 8 日から 11 日にかけて、自転車車を車に積み込んで、胆振・日高地方を巡ってきた。

『今年こそは絶対に実行するぞ！』

このメンバーの北海道ツアーは、埼玉県在住の大竹君と田端君が札幌市近郊の私たちを誘って、岩見沢市を拠点にした自転車イベント「北海道空知グルメフォンド 2016」に参加したのが始まりだ。この年の開催は前日までの低気圧による大雨で、距離を短縮して実施された。この距離短縮もあってか、無駄に体力を持って余した輩もいて、仲間内の前夜祭や反省会などは大いに盛り上がった。結局、このイベント参加が病みつきになり今年の北海道ツアーまで回数を重ねることになった。

しかし、楽しみにしているイベントだが、2020 年～21 年はコロナ禍で残念ながら参加を見送った。「これで自然消滅かな」との思いもあった 2022 年 4 月、埼玉県の 2 人から「今年こそは北海道ツアーを実現したい」との連絡があり、早速、もろもろの検討を始めた。グループ LINE による打ち合わせは、コミュニケーションの優れた物だと改めて実感したが、60 歳を過ぎた父ちゃん達は、遠く離れていながらも「あーだの、こーだの」全員で計画を練っているうちに勢いがつき、チーム T シャツまで製作して、開催日まで楽しい時間が経過した。肝心の行先はというと、大衆向けの自転車イベントには参加せず、洞爺湖町と親交がある S 氏が暮らす静内町を走ることに決定した。



『豊平川河川敷ライドから北海道ツアー開始！』

【1 日目】

千歳空港に到着して札幌市に移動した 2 人は、毎年のことだが豊平川河川敷を札幌の景色を堪能しながらウォーミングアップをすることに。今年は地元のメンバーも参加。平日で仕事中の仲間のことを気にもせず一足早く極楽モードに突入した。

また、その日の夜は南富良野町から機械 11 期塚越君、地元の橋本(敏)君が加わり、昔を思い出しながら懐かしい「グランド居酒屋富士」で前夜祭を催し、明日以降の安全を祈願して美味しいお酒で身を清めた。



左手前から橋本(敏)君、塚越君、宮脇君、松岡君
右手前から坂東、田端君、大竹君、小笠原君

【2日目】

この日は計画通り、少し我慢の昭和新山と洞爺湖を周る平坦コース。天候もよく気持ち良く走ったが、なんとローラーブレードで参加の松岡君が、途中で一回転する大転倒で痛々しい擦り傷を負った。「通行する車がなかったのに、完全に気を抜いてしまった」とは本人の弁。年齢的な衰えもあり心配したが大事には至らず安堵した。

その日の宿泊は洞爺湖町のおしゃれな貸別荘だ。噴火湾が眼下に広がる景勝地にあり、遠くには駒ヶ岳も見ることができた。その日の夕食は、夕日で赤く染まる素晴らしいロケーションに包まれながら、バーベキューと澤田家が差し入れてくれたウニ丼をたっぷりご馳走になった。奥様ありがとうございます！



その後は別荘に戻り宴会を続けたが、第2ラウンドも夜が更けて、年甲斐もなくベッド争奪ジャンケン大会で寝床を割り当てることにした。身長180cmオーバーの山田君が最下位になり、子供用2段ベッドの上段で寝ることに。気の毒であったが誰も山田君に自分の寝床を譲ることがなかったのは、いま振り返ると申し訳なかった。



2日目から参加の山田君(手前左)



洞爺湖町で合流した澤田君(前列中央)

【3日目】

この日は静内町まで移動するが、埼玉県の2人はウポイ見学をすることになっている。自転車に乗る時間を考えるとあまり余裕はないが、一同は途中で「地球岬に立ち寄る」、また「母校の前で記念撮影」が追加メニューになった。実は洞爺湖町で帰宅することになっていた松岡君に加えて急用ができた私は、残念ながら別荘でメンバーと別れ、また、地球岬の到着後に腹痛が治まらない小笠原君も離脱した。しかし、それらのことは全く影響せず、残りの4人は一段と盛り上がりツアーを楽しんだ。この先はLINEで送られた情報と想像を交えて書いているが、ほぼ事実と相違はないと思われる。



静内町では地元のS氏が合流した。彼が企画してくれたルートの観光名所などに立ち寄っているが、年齢不相応に盛り上がっている写真が送信されたのを見て、洞爺湖町で別れたのが残念でならない。それに加えて、走りでは完全燃焼して十分に満足したことが、夜の反省会の疲れ切った画像からも確信できた。

【最終日】

いよいよ今回の北海道ツアーも最終日となった。静内町に宿泊した4人はウトナイ湖に移動して解散だ。その時に来年の開催を約束したかどうかは定かではないが、別れを惜しみながら宮脇君と山田君が帰宅。大竹君と田端君は、北海道を腹いっぱい堪能するため、再びツアー最後の走行に繰り出した。昼食に「苫小牧味の大王総本店」でカレーラーメンを食べながら、まだまだ遊び足りない気持ちのまま千歳空港へ。

彼らから帰宅後に届いたLINEには、その日(7月11日)が2022年のラーメンの日であったこと、更に前日は納豆の日(7月10日)で別荘の朝食で「納豆ご飯」を食べたことについて「こんなの偶然！ なまら感動した！」と興奮気味の内容が書き込まれていた。

こんな調子なので、60歳を過ぎた父ちゃん達の「ツルム・ド・北海道」は、感動を詰め込んだ宝箱として、これからも続くことを楽しみにしている。 完

